



# 地球を相手に感謝しながら 汗を出す仕事。若者の社会復帰を 支援する活動にも取り組む。

森林の木を育て伐採、その恩恵は「材木」となり、私たち日本人の暮らしに息づく存在となります。大切な木を育むように、さまざまな事情で社会と接点が持たない若者たちの支援にも、グループで関わり続ける栗栖さんに話を聞きました。



株式会社栗栖材木店  
代表取締役  
**栗栖 康裕** さん  
(くりす・やすひろ)

広島県山県郡出身。高校卒業後に広島市の製材工場で10年以上の経験を積み、家業の材木店を継ぐため帰郷。里山の林業に今も向き合い続ける。

(株)栗栖材木店 0826-22-0065

## 100年事業の6代目を担う

豊かな自然が残る広島県の北部、山県郡安芸太田町で明治時代から続く材木業を守り続けています。現在の私で6代目になります。植林した木を育て伐採、切り出した材木は広島県の林産合同木材市場で売りに出し、購入が決まれば収入になります。私たちの仕事は地球という、大きく、かけがえのない存在を相手にしていますから、人間の寿命よりも長い木を切り倒す時、自然への感謝と敬意を払うことも大切にしています。やっぱ汗を出して働いた後の食事は美味い。その達成感が仕事の喜びであり、継続へとつながるやりがいになっていますね。広島県内でも最近では土砂崩れなど、自然災害が問題になっています。地球と真摯に向き合う林業と森林の役割が、これからはもっと評価されたいと願っています。

## 人と関わりが持ちにくい若者を見守る

私が本業の傍ら活動しているのが、人や社会と接点が持ちにくい、心がデリケートな若者たちの支援です。これは色彩カウンセラーとして活躍されるリブ・カラーズの柴田みつ恵さんが立ち上げた「ガハハ塾」の活動で、不登校などの問題を抱える子どもたちの居場所づくりと社会参加、自己の確立を目的としています。専用の畑を持ち、土地を耕し種を蒔き、育った収穫を料理して楽しむ自然体験のほか、地域の老人福祉施設のイベントにボランティアで参加するなど、人との交流を図ることで大きな達成感が得られる支援を、私自身もスタッフとしてサポートを続けています。子どもたちが来る前に見せていた不安そうな顔も、活動して帰る時には笑顔を輝かせているのを見たら、やって良かったと実感します。そうした積み重ねで、外へ出れずにいた子どもたちが元気になっていく。その成長を見守る喜びのために、これからも続けていきたい活動ですね。

## 次の世代を担う後継者づくり

若い人たちの元気が本当に必要です。林業をはじめとする第一次産業も、次の世代を担う後継者が問題になっています。これから林業を目指す人には、キレイごとではなく、地球という大きな存在を相手に汗を流してほしいと思います。仕事が長続きしない若い人も少なくありません。当社でも指示されたことはできるけれども、状況に応じた臨機応変な対応は苦手な人がいます。そうした判断ミスが、自然の中にあると危険な場合もあります。私はマニュアルに対応する左脳感覚的な右脳、そのバランスが問題ではないかと感じています。森の木が育ち、地域の暮らしに役立つように、社会で役割を発揮する若い人材を育て、見守っていきたくいですね。



今年の収穫に備えて準備する「ガハハ塾」の参加者。幅広い世代が交流することで笑顔と元気があふれる。